

国家戦略会議フロンティア分科会平和のフロンティア部会第 1 回会合提出資料

中西寛（京都大学）

2050 年の世界をどうイメージするか

現在から 2050 年頃までは大規模な移行期である。中印を中心とした世界人口の大半を占める世界が産業化を進める一方で、情報社会化と高齢化が進む先進社会は停滞する。その過程で既存秩序に様々な矛盾が生じ、力による解決が求められたり、誤算による武力紛争が生じたりする可能性も存在する。2050 年までの移行が大きな破綻なく進めば、21 世紀の後半はより安定した、調和のとれた世界となることが期待できるのではない。

アメリカは先進地域の中では人口を増やし、特に労働人口が多いと予測されるから、2050 年頃でも世界をリードする存在であろう。しかしヒスパニックを除く非白人が人口の半ばとなり、アメリカの価値観、世界との関わり方は大きく変わる可能性がある。

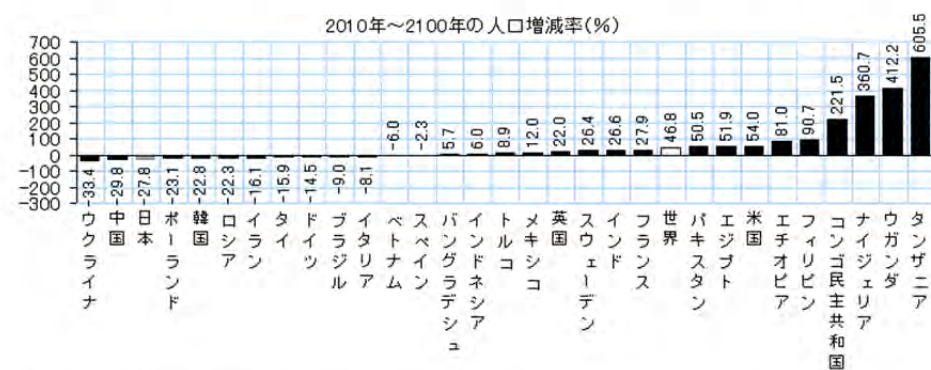
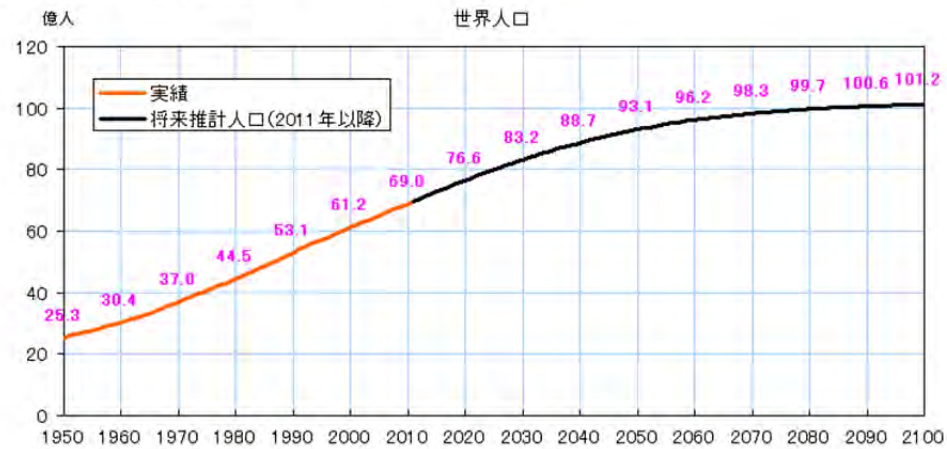
アジアにおいては主権国家への愛着とナショナリズムが強いが、このままでは対立の解消は困難であり、一定程度の脱主権化が目指されるべきである。日本が率先してこの道を進むことが考えられる。

東アジアでの人口ボーナスは 2010 年代から 2030 年代にかけて終了する。2050 年頃には世界の成長の中心は更に西漸し、南アジアからアフリカにかけての地域が成長の中心となりうる。2050 年頃までの間に世界の情報社会化が進むことはまず確実だし、他方で世界は複数の文明圏の並立状態である可能性が高そう。

2050 年までの期間の大部分は、日本が米中の間にある国という位置づけが基本となろう。地政的には日本と近接エリアが敵対的な勢力に支配されないことを外交目標とすべきである。また、日本が経常赤字国となった後にも経済的に一定の自立性を保つために、食糧、エネルギーなどに関して日本および周辺地域の開発による自給性の向上が考えられる。その上で、固有性と発言力を確保するためには、様々なネットワークを維持し、味方を多くもたねばならない。

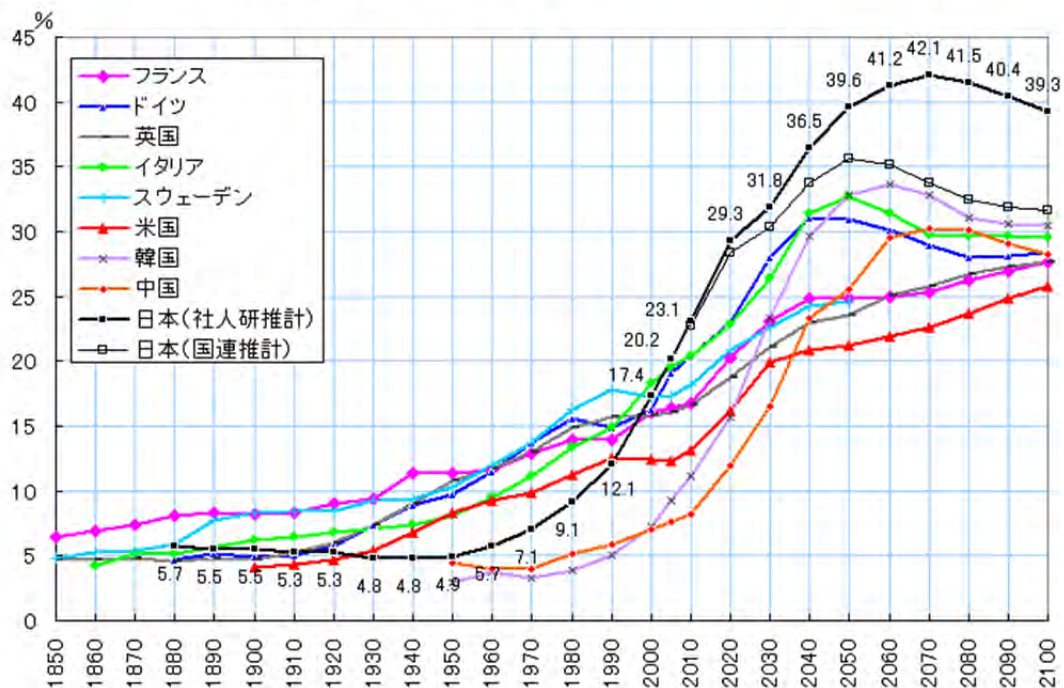
いずれにせよ日本が世界史的にも希な逆三角形ピラミッド社会に変わっていく中で、日本の課題のかなりの部分は国内にあり、対外政策は政治経済を含めた国力の従属変数となるだろう。

世界と主要国の将来人口推計



(注) 中位推計の結果 (資料) 国連(2011). World Population Prospects: The 2010 Revision

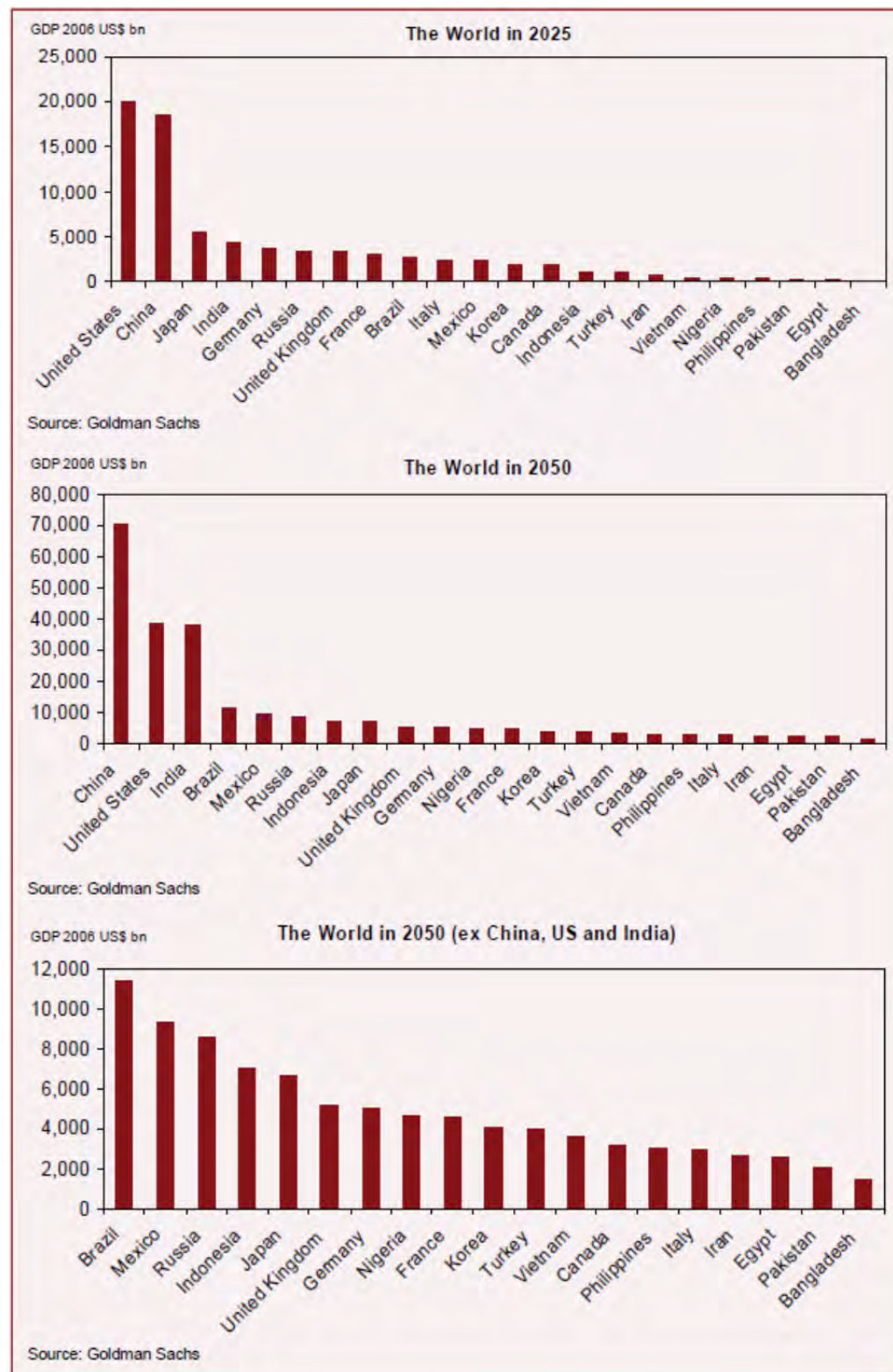
主要国における人口高齢化率の長期推移・将来推計



(注) 65歳以上人口比率。1940年以前は国により年次に前後あり。ドイツは全ドイツ。日本は1950年以降国調ベース（2005年迄は実績値）。諸外国は国連資料による。日本（社人研推計）は国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成18年12月推計）」における2050年までは出生中位（死亡中位）推計値、それ以降は2155年に人口置換水準へ到達する出生置換シナリオ（死亡中位）参考推計値。

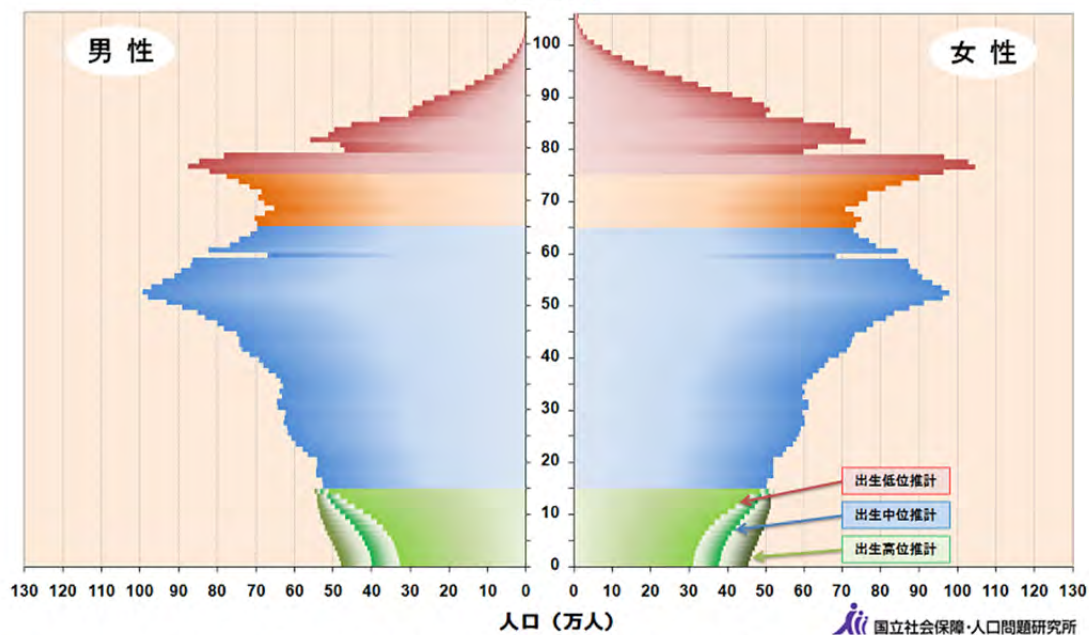
(資料) 国立社会保障・人口問題研究所「人口資料集2009」、国連「2010年改訂国連推計」

(出所) 社会実情データ図録



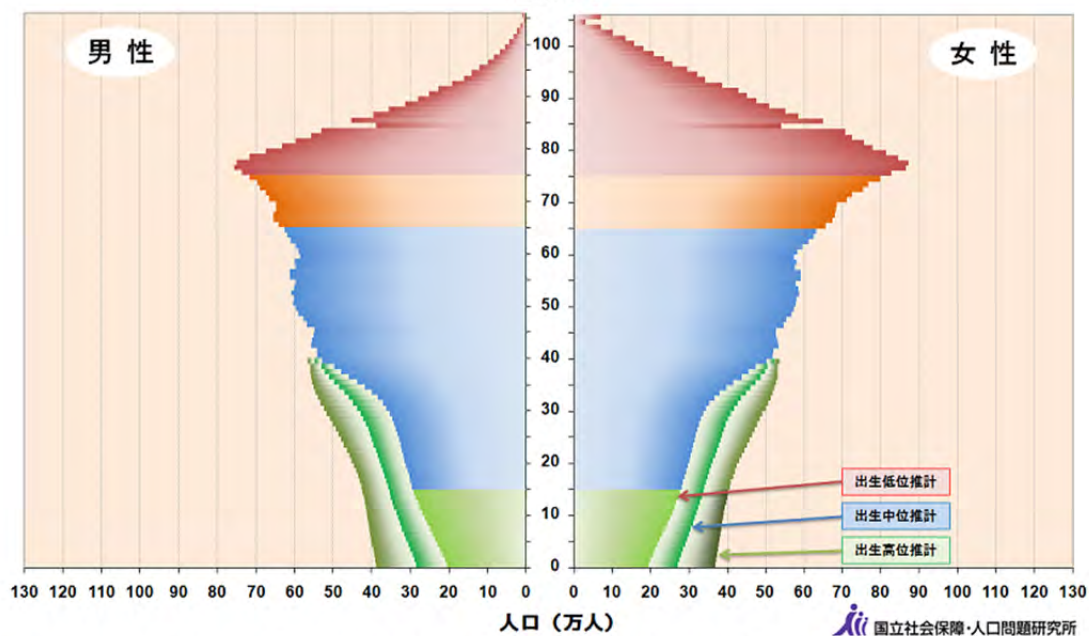
Source: Goldman Sachs Global Economics Group, BRICs and Beyond

2025年



資料：1920～2010年：国勢調査、推計人口、2011年以降：「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」。

2050年



資料：1920～2010年：国勢調査、推計人口、2011年以降：「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」。